

童

2022年7月22日.

ひんやりした夜明け。蛙の歌声が、鳥たちのさえずりに変わり、虫たち（たぶん、クワガタやカブトの好きな樹液の匂い）の匂いが漂ってくる朝。まさに、夏の匂いです。そして、夕方のヒグラシの声。再び夜露と共に訪れる涼しいひんやりした夕闇。まさに、夏です。

梅雨があったようなないような6月7月。朝から本格的に雨具を着たことは数回しかなく、しかも、朝の会もほとんど野外で行われてきました。それだけで、雨が少ない日々だった事がわかります。散歩 泥や水遊び、ひまわりの成長 流しそうめん 野菜などの手入れ など、季節を感じながら過ごしてきました。

今年は、年少児の割合が多く、この時期、年齢や体力に応じた丁寧な暮らしの指導が必要と感じ、お昼寝までは、昼食を含め、年少児に3名のスタッフがつき、年中年長児おおぞらさん達は、ガー君が担当しての暮らしに切り替えました。わらべ歌や朝の会も、年齢に応じたことをじっくり楽しめ、散歩の興味や目的場所、農作業なども、それぞれの年齢のパフォーマンスが十分発揮できるようになっています。

先日、年中年長児達を、天神さんの用水路に連れて行きました。最初は、3、4人しかパンツにならず、用水に入り水遊びをして、他の子ども達は、見守っていたり他の遊びをしていましたが、時間が経つに連れて、一人二人と増え、水遊びが流れるプール遊びになり、ほとんど全員が、ワニのように泳ぎまくると言う具合。別に、催促する訳でもやってみようよと言う訳でもなく、ただ青ちゃんも、水に足をつけて気持ちよく見ているだけ。「退屈は想像力への入り口である」ただただ、子ども達は本能で時間と共に、魅力的な世界へ自然に入っていくので、(その子の入るまでの時間はそれぞれ)、大人は 諦めずに時間を保証して環境設定して導いてあげれば良いと思います。あちこちに脱いだ衣類や濡れた下着などが散乱していて、さて、帰る支度をする時に、どうなるかと見守っていましたが、全員が 自分で濡れたズボンなどを自分で懸命に履いたり着たりして、自力できれいに着替えていました。(こちらは手伝わないで見守っていただけ)。こんな場面に、子ども達の大きな成長を感じます。

子どもを見守る時間や片付けなどの時間をたっぷり保証してあげる(子どものペースとマネジメント能力は、大人とは異次元)事で、暑い夏を楽しみましょう。



【影絵】

夏の風物詩、海水浴や夕涼み会や登山が次々に続きました。まさに、暑い夏を満喫してきたようです。刺激的な事が多かったですが、中でも、影絵が、自分の中で一番の充実感です。ちなみに、2番目は、トーチングのワイヤーロープからの火だねを受け止める最初の着火です。

冒頭にありますように、今年は 年少児達の割合が多いので、じっくり楽しめるようにと、影絵を小さい子向けにも演じようと一ヶ月前から考えました。従来の影絵は、夏 星 七夕などがテーマですので、小さい子向けにも同じようにと、過去保護者を含め楽しんで来たオペレッタを影絵にしようと製作脚本して、練習してきました。

2本演じるので、朝、夕と2日おきのペースで練習しながら、一度は、夜集まって、その映り加減を見たりして、準備しました。

舞台裏は、凄まじいもので、ほとんどしゃがんだ状態で、忍者のように音を立てずにあたふたと入れ替え、照明も同時進行で、足でスイッチを入れたりして、一人で3つ位の動きや役割を演じるという修羅場状態です。

絵本やお話や演劇などと違い、演じる側は、全く 観客の表情や状況を見ることはできません。ただただ、その静けさが、反応のバロメーターです。最初の年少版「落ちてきたお星様」の影絵。ストーリーは、メルヘンとファンタジーかつ子ども達が大好きな登場人物が揃っています。題材的には、この年齢にぴったりだと思っていました。

いざ、始まってみると、恐ろしいほどの静けさのエネルギーが舞台裏まで伝わってきました。日頃の年少児達の騒々しさ(!?)が嘘のように、本当に観客がいるのかと思うほどの静けさでした。そのエネルギーのお陰で、裏舞台も、まずまず、気合いが入って、心を込めて演じることができました。まさに、観客のお陰であり、また、子ども達の精神や年齢に沿った環境設定(題材 人材 舞台環境 時間環境等)をすれば、どんな子ども達も、心を寄せることができると、再確認しました。

大きい子ども向けの「七つの星」は、とても精神性に高いストーリーです。今までは、年少児もこれを見ていましたが、やはり、年少児達は、ここまでは行き着かず、年中児達も、微妙なボーダーかなと考えます。その意味では、大きい子ども向けのストーリーです。こちらも、同様、ほとんどの子ども達も食いついてくれ、きっと、大人も楽しめたのではないのでしょうか。

準備に時間をかけ、練習や想いに時間をかけ、じっくりと日々努力してきた影絵は、やはり 充実感と達成感がありました。お話も、一朝一夕では覚えられず、じっくり日々時間をかけて積み重ねて行かねばならないだけに、同じように影絵も一緒でした。これは、何でも一緒ですね。やはり、インスタントはインスタントですね。その意味で、影絵は、本当に、やりがいのあったこの夏一番(ちょっと早いですが)の自分の中の世界でした。

ちなみにあげたトーチングの着火。仕掛けは、高いケヤキの木の上からのワイヤーロープを滑り降りる火だねを受け止める役割です。この仕掛け。前日の暑い最中、朝から金子父が終日、この仕掛け作業に取り組んでくれていました。命掛けの危険な作業にもかかわらず、笑顔で取り組んでくれる姿、時間をかけて丁寧に言う姿、いろいろな思いを語りながら取り組んでくれる姿勢、その一瞬の着火だけのために、これだけの時間と努力を積み重ねてくれる思いに、答えなければという大きなプレッシャーがありました。特に、今回は、トーチングの棒の先に、当てなければならないというリハーサル練習無しの一発でした。それでも奇妙な根拠ない自信がありました。本番では 予想以上に、ワイヤーが重くかつ火だねのスピードが速く一瞬 20 秒ほど通り過ぎてしまいましたが、ワイヤーを逆にして返して、ほぼうまく着火成功。気合いの入った緊張の瞬間でした。

こちら、自分自身の練習や努力ではありませんが、金子父の努力と想いに答えるべくしての充実感と達成感でした。やはり、日々の積み重ね 地道な努力の先の世界は、素晴らしいです。嬉しいです。そして、充実感 やって良かったという人生の貴重なアルバムを積む事ができます。

「しとしと雨と夕立の雨、どちらが地面にしみ通っていくか、土に入っていくか?」「やはり、しとしと雨ですね。夕立は強すぎて、土にはじかれてしまいますから」 強い刺激は、その時ばかりで、はじかれたりすぐに忘れられたりしますが、穏やかでじっくりと日々絶えない刺激は、染み入るように入ってきて忘れられないようになります。

インスタント食品 手間暇を省いた便利な商品 IT 機器 に始まり、人々が顔を合わせないオンラインやリモート。ますます世の中がインスタント化されていくような時代です。大地は、この流れに少しでも逆らって、日々顔を合わせて積み重ねて行く事を、優先的に行っていこうと思っています。